

メディアフェス2012 第10回市民メディア全国交流会 ～つながろう！広がろう！伝えよう！～

10月27日、28日（日）に第10回「市民メディア全国交流会～つながろう！広がろう！伝えよう！～」が上越市で開催されます。

この中で、分科会【6】「地方紙と市民によるメディアの新しいあり方」を行います。

ここでは、地方紙と市民によるメディアの新しいあり方の実例を聞き、参加者とともに論議します。

埼玉新聞社クロスメディア局企画編集部長吉田俊一氏が「埼玉新聞社の市民参加紙面の取り組み」、NPO法人埼玉情報センターの生越康治氏が「埼玉新聞社と市民の共働の取り組みについて」、東京新聞読者応答室室長の鈴木賀津彦氏が新聞と市民メディアについてお話を頂き、コーディネータのslowtimes.net代表の長岡素彦と参加者と「地方紙と市民によるメディアの新しいあり方」を論議します。

内容

9：30 「埼玉新聞社の市民参加紙面の取り組み」 埼玉新聞社クロスメディア局企画編集部長 吉田俊一氏

9：50 「埼玉新聞社と市民の共働の取り組みについて」 NPO法人埼玉情報センター 生越康治氏

10：10 「新聞と市民メディア」 東京新聞読者応答室室長 鈴木賀津彦氏

10：30 論議

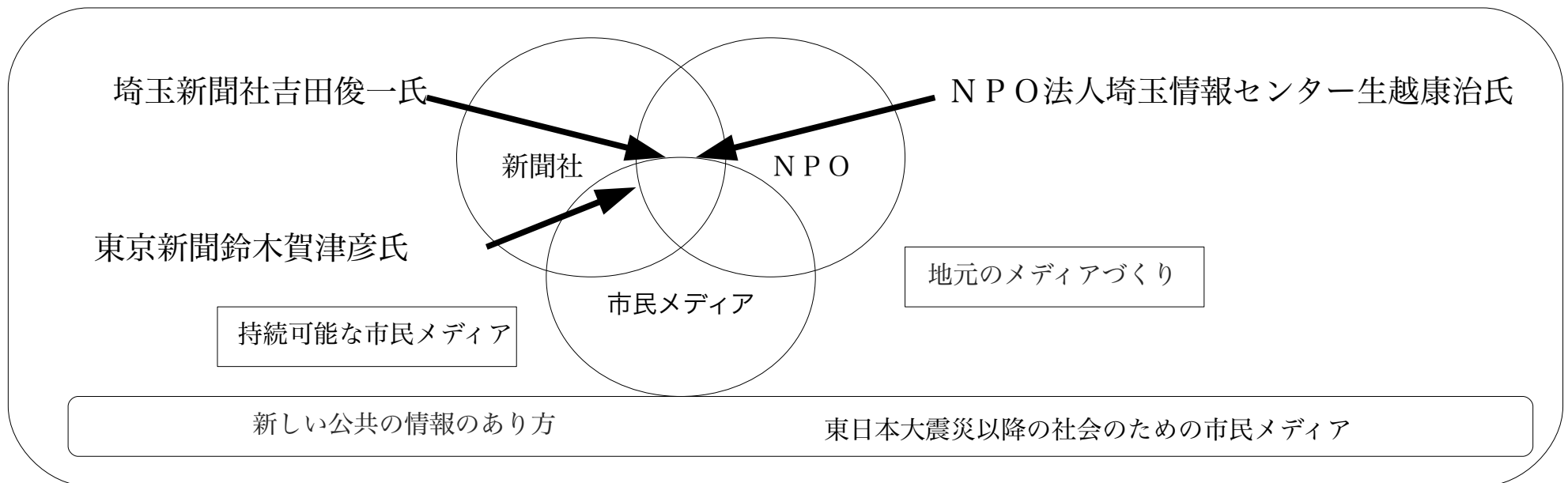
slowtimes.net代表の長岡素彦と参加者と「地方紙と市民によるメディアの新しいあり方」を論議します。

日時 10月28日（日） 9：30 ～ 11：00 会場 高田駅前コミュニティルーム

サイト <http://kubikino-medhifesu.p-kit.com/page213902.html>

今までメディアフェス等で論議してきた市民メディアのあり方(持続可能な市民メディア・地元のメディアづくり・東日本大震災以降の社会のための市民メディアの論議)と新しい公共の情報のあり方を踏まえて

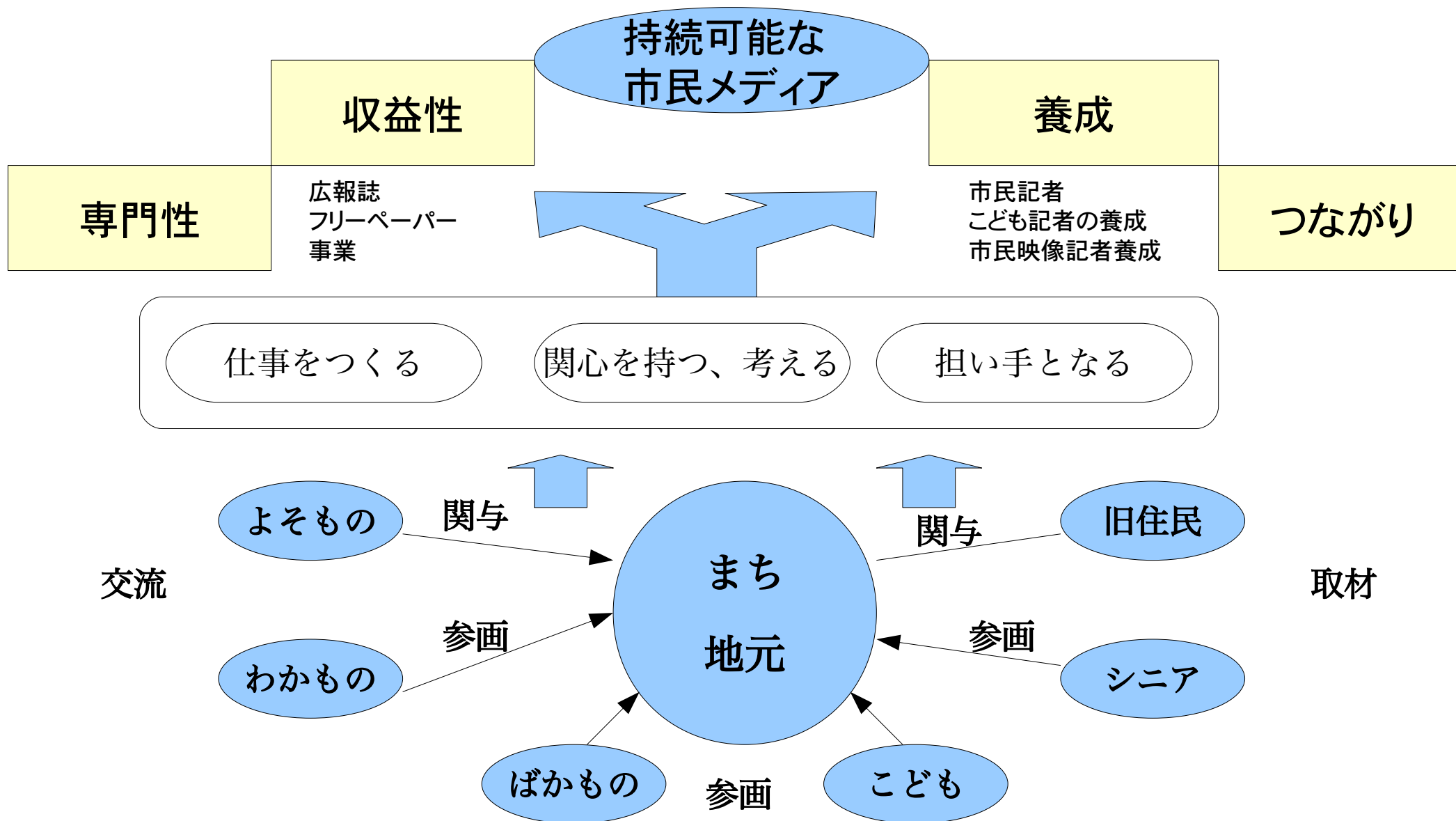
埼玉新聞社クロスメディア局企画編集部長吉田俊一氏「埼玉新聞社の市民参加紙面の取り組み」、NPO法人埼玉情報センターの生越康治氏「埼玉新聞社と市民の共働の取り組みについて」、東京新聞読者応答室室長の鈴木賀津彦氏が「新聞と市民メディア」についての事例を聞き、「地方紙と市民によるメディアの新しいあり方」を論議する。



今まで

- メディアフェス2010 市民メディア全国交流会 分科会「コミュニティをつくるメディア・メディアリテラシー」
<http://www.slowtimes.net/2010/09/04/20100904/> →持続可能な市民メディアあり方についての論議
- メルプラッツ2010 論議「地元のメディア育て」
<http://www.slowtimes.net/2010/04/05/20100408/> →地元のメディアづくりの論議
- 自治体学会 関東フォーラム2011 in 東上線沿線 分科会 「市民メディアと新しい公共」
<http://www.slowtimes.net/2011/01/29/20110129/> →新しい公共の情報のあり方の論議
- メディアフェス2011 市民メディア全国交流会 仙台 ポスターセッション「東日本大震災以降の社会のための市民メディアとESD—
<情報力><調査力><社会構想力>」
<http://www.slowtimes.net/2011/09/24/20110924/> →東日本大震災以降の社会のための市民メディアの論議

メディアフェス2010 「コミュニティをつくるメディア・メディアリテラシー」



メルプラッツ2010「地元のメディア育て」

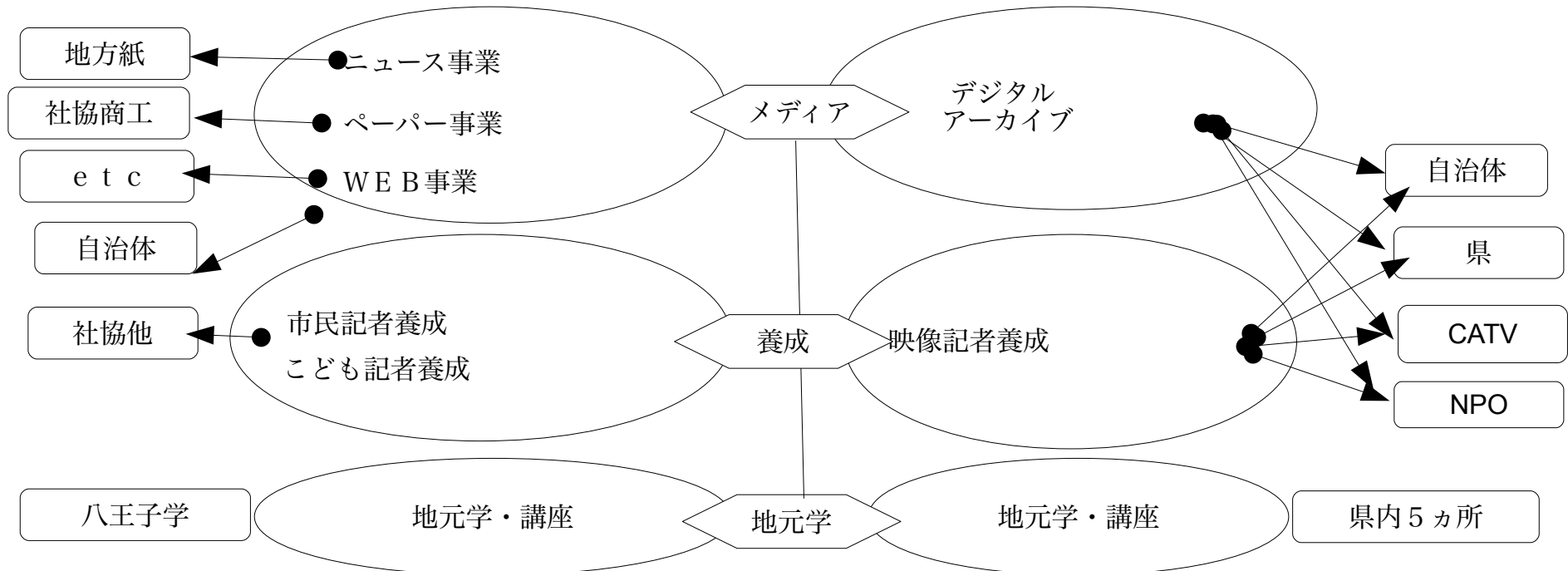
地元・まちのメディア育て まちのコミュニケーション育て

アソシエーション型

LLP じもとメディア

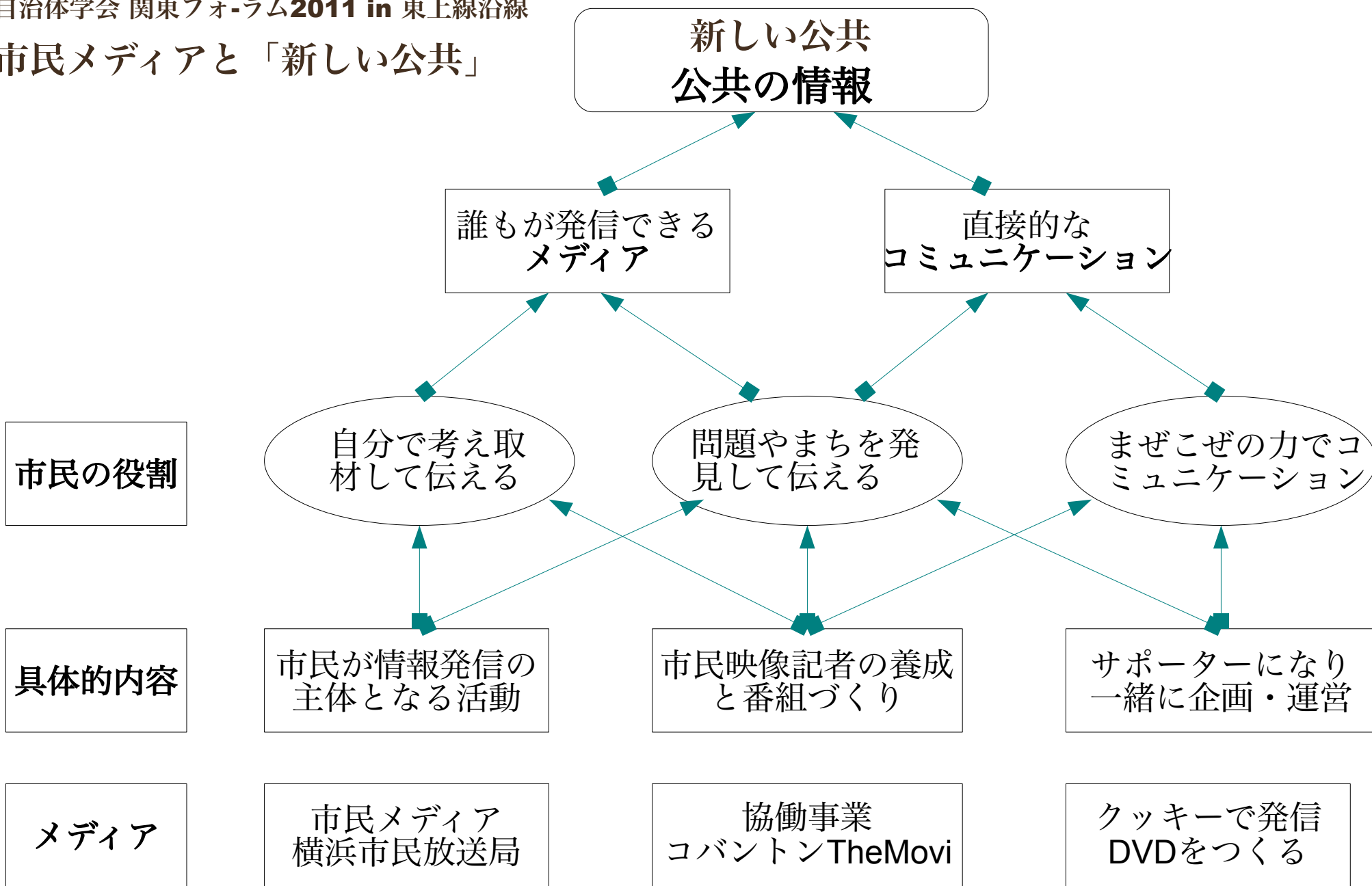
コラボレーション型

県協働 市民映像フォーラム



ピープルズシアター リコリコ

まちのコミュニケーションプロジェクト
まちのコミュニケーションWS



市民メディアと「新しい公共」

新しい公共とは、「官」だけではなく、市民、NPO、企業等が積極的に公共的な財・サービスの提供主体となり、教育や子育て、まちづくり、介護や福祉等の身近な分野において共助の精神で行う仕組み、体制、活動など「新しい公共」の定義(政府の定義)

公共的な財・サービス・「情報」の提供などを市民、NPO、企業等が行う

